月桃（げっとう）通信 No23　2021 年 1 月 14 日

地球が蘇る時　　石原艶子

――世界非戦条約締結を祈る――　2021 年メッセージ

〇知恵ある者はその知恵を誇るな。力ある者はその力を誇るな。富ある者はその富を誇るな。―――この地に慈しみと正義と恵みの業を行う事、その事をわたしは喜ぶと主は言われる。
（旧約聖書　エレミヤ書９：22、23）

ガンジー魂の言葉から

〇運命はわたしたちがつくるものである。いまからでも遅くない。いまをどう生きるかで未来が決まる。
〇自らに課せられた苦痛を受け入れ、その苦難に耐えなければならない。その苦痛を通して、わたしたちの魂の力は、暴力のない世界へ扉を開くことが出来る。

沖縄 2021 年

〇コロナ禍は関係なしと寒空裂いて戦闘機飛ぶ。
〇空に響く爆音、地にはアメリカ国歌と君が代が流れる安保の島の戦後 76 年。
〇コロナ禍に三密避けよの声空しく辺野古ゲート前は特別異常地帯、座り込み、ごぼう抜き、琉球処分の 2021 年。
〇沖縄に基地はいらない、埋め立て今すぐやめろと叫んでも埋め立ては止まらない、何故？民意は空しくダンプの列に胸刺す悲しみ。
〇地獄の血の中で父の母の兄弟たちの命の叫びが今も聞こえるあの糸満の激戦地の土砂を辺野古埋め立てに使う準備が始っている。現場に立つと地の底から潮騒のように聞こえてくる死者達の声、私たちは絶対に許さない、戦いの決意がメラメラと燃え上がり一人一人の民の顔は今、生きている。
〇季節は巡り、つわぶきの花咲く防衛局前、つわぶきは黄色が美しく、平和の花、沖縄防衛局なんていらない、と語りかけてくれる慰めの花。
☆2021 年私の祈り―――世界中すべての国が世界非戦条約を締結して地球上から戦争がなくなること。
―――彼らは剣を打ち直して鋤とし槍を打ち直して鎌とする。国は国に向って剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。（イザヤ書２：4）
神が人類に期待する最終的な祈りはこれに尽きる。このことが成就した時神の国が実現するのだと私は思う。核兵器禁止条約に 50 ヶ国が加入し国連でこの条約が成立する見通しになったが、被爆国日本はこの条約に加盟しないという、それはアメリカの核の傘に守ってもらっているからだと。何と愚かな幻想であろうことか。むしろ現実は全く逆なのです。アメリカの代わりに戦争する国に最前戦の防波堤となるために着々と準備しているではありませんか。沖縄先島諸島への自衛隊ミサイル基地の建設、辺野古新基地を中止しない事、伊江島の基地機能強化、ヤンバル高江の森にヘリパット６基も新設し、オスプレイ被害で住民を苦しめている事、戦後 76 年の現在、基地は強化される一方、日米安保の現実が今沖縄にあること

を見てほしいと私は繰り返し訴え続けていますが、コロナ禍一色の報道の中でまたもや沖縄は忘れ去られ、国民一人一人の問題とならないのは何故なのですか。それは国民の目に隠されたしっぽである沖縄は処分して犠牲にしても良い場所とされているからだと思います。天皇制護持のために沖縄を切り捨てたその天皇制が根っこにあるからではありませんか。あれだけの戦争をしてアジア諸国の人々の命を日本国民の命を奪ったあの戦争の反省も悔改めも出来ていないのは何故ですか。日本人が変っていない本当の原因は天皇制の上に生きる精神構造が、悔改めも謝罪も出来ない人間を造り誤魔化しの偽りの国家を生み出しているのだと思います。かつて東大総長であった矢内原忠雄が沖縄での講演の中で「沖縄は日本の頭である」と語ったことが残されています。沖縄への愛がこう語らせたのだと思います。日本中の人々が矢内原忠雄のように、沖縄を日本の頭として、その声を聞くことが出来たら、日本は変わっていたはずです。戦後 76 年、沖縄をしっぽとして切り捨てて天皇制護持に生きるこの国は、このままでは滅びる他ありません。辺野古の海を埋め立てるために沖縄の山々が切り崩され、山も海も壊されていく沖縄を見て見ぬふりをするのでしょうか。菅総理はかつて言いました。「わたしは戦後生まれで沖縄の歴史も知らない」と。沖縄を見捨てることは日本という国が滅びに向う道であることを今、知ってほしいと思います。「もう琉球処分はやめて下さい」。

闘いの現場から

☆うるま島ぐるみ敬愛する友人の闘い

ダンプの運転手を見上げて目と目を合わせて語りかけ、便りを手渡し続けているＨさん。それは憲法前文であったり、慰霊の日に語られる子供たちの平和の詩である。殆どの方が受け取って下さるという。埋め立ての土砂を運んでくるダンプの運転手も同じ人間、人間として向き合うことから非暴力の闘いは始まる。こうして呼びかけつながることでいろいろの事情も見えてくるといいます。もう顔も覚えられて、Ｈさんの心はダンプの運転手に届いているのです。この人達がこんな仕事をしなくてもいいように利権に群がる闇の勢力が一掃され、早く中止になりますように切に祈るばかりです。小さくても非暴力のＨさんの闘いは、闇の中に輝いています。

☆コロナ禍の中闘う沖縄の民

オール沖縄、島ぐるみの私達は、党派を超えてひとつとなり個人個人がつながって頑張っています。お金もなく健康不安も抱えながら、まるで目には見えない大いなるお方に呼び出されているかのように現場に立ち続けて七年。昨年は大切な人とのお別れに心折れそうな試練がありました。６月にはうるま島ぐるみのリーダーを失ったこと、また 12 月には本部・安和の現場リーダーを失ったこと。最後まで現場に立ち続けた、平和を希求する戦士達を悼み後に続く者になろうとみんなで支え合い励まし合っています。連帯の輪が広がりますように。

☆名護市役所前での抗議

名護市は三年前の市長選に敗北してから無力な市長は日本政府に抱きかかえられ、主体性も沖縄魂も失くして国の出先機関、防衛局に乗っ取られたかのよう、そんな中、野党議員が必死で頑張ってくれています。私たちは美謝川の進路変更を許可しないよう訴え続けている。辺野古ダムには単管やぐらが築かれ、着々と準備している。みんなの抗議から隠れるようにブルーシートをかけてしまった。国と防衛局は既成事実を作り、法を無視してまで、不可能な大浦湾埋め立て（20 年２兆円とも）を国民の税金でやろうとしているのです。私たちは市長選に敗北した現実の厳しさを今、突きつけられています。国はあの市長選

で悪の力を結集して名護市と沖縄を潰したのです。

《キリスト者による県民クリスマス》

2020 年 12 月 13 日コロナ禍のため昨年のクリスマスは米軍司令部ゲート前で行いました。両側米軍基地の中を通る道路は車のラッシュ、騒音の中、基地内の米軍の人々にも届くようにと讃美歌を歌いましたが、車の音に消されてしまいました。暖い暖い南国のクリスマスは太陽がヤシの木の向こうに眩しい光を放ち、まだ夏のようでした。神様は私達を祝福し、イエスさまの平和を満たして下さいました。〝幸いなるかな沖縄の民よ、わたしはいつもあなたがたと共に居る〟と。

コロナからの警告

その①）まだ明けぬ空高く、お月さまが大空を足早に歩いて行く。私もお月さまと一緒に大空を歩いて行く。宇宙から見る地球の美しさに感動し言葉を失う私がいた。宇宙にたったひとつの命育む星、地球。創造主なる神の愛が造り出した奇蹟の星、地球、大気に被われて生きている。海、山、陸、空、すべてが生きて命を育んでいる。人間が自分の知恵や力で造ったものは何ひとつとしてない。人間は何億年もの地球の営みの中でたった何千年かの歴史を刻んでいるにすぎない。地球は人間だけのものではない。生きとし生けるすべての動植物、微生物、すべての命と共にある。人間だけが地球の主ではない。この地球に生かされている人間という命、あなたとわたしであることに今、目覚めよう。

その②）地球温暖化と脱炭素社会

ここに来て世界は、温暖化による人類生存の危機を感じとり、脱炭素社会への転換を声高に発信するようになった。日本は遅れを取り、焦っているかに見える。本来ならば何十年も前から原発を止め、自然エネルギーで世界をリードすべきであったのに、ここに来ても尚、原発ゼロ宣言をしないのは何故だろうか。核保有国になろうとしているのではないかと私には見える。私が一番言いたいことは、脱炭素社会を訴えるならば、軍事基地を造ることをやめようと言うべきであるということだ。何故これだけ温暖化の危機を叫びながら、世界のリーダー達の口から「軍拡」をやめようとの発言が全く無いのだろうか。軍事による地球温暖化の加速には全く触れようとはしないのか。これでは地球の危機は救えない。コロナの警告は「軍事力拡大、軍事による覇権争いはやめなさい、戦争につながることはやめなさい」ではないのか。コロナは人類に警告するために来たのだと思う。コロナの声に耳を傾け、この地球上で人類が地球家族として共存する、国境のない世界を目指していきたいと願う。大浦湾、水深 90 メートルもの海を埋め立てる計画、今すぐやめられるか否かにこそ人類の未来はかかっているのだと私は思います。まず謙虚になろう。うめきながら尚、私たち人間を生かそうとする地球の命の声を聞こう。人類が築いてきた文明が失われない内に。

【お願い】

辺野古基金のために

つながる力うつぐみの会（福生市在住：大野悦子）の着物リサイクルマスク、一枚 200 円。ご協力お願いします。すぐにお送りします。ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ

《近況報告》

私は体力が回復し、元気でいます。昌武さんは足が弱り仕事は出来ませんが、週 2 回のデイサービスの音楽療法を楽しみ、教会の日曜礼拝と読書を楽しみ元気でいます。私は今年も月桃通信の配信に心を注ぎ、新基地中止コロナ禍支援にまわせ、を訴え続けます。